

令和4年12月16日
(2022年)

吹田市立片山中学校
保護者・地域の皆様

吹田市教育委員会
吹田市立片山中学校
校長 河合 克子

吹田市立小・中学校における電話対応について

保護者の皆様には、日頃より本市の教育行政ならびに学校の教育活動に御支援、御協力いただきありがとうございます。

教育委員会では、現在、教職員が本来業務である授業・学習指導等に専念し、子供たちと向き合う時間を十分に確保できるよう、教職員の働き方の見直しを進めています。

つきましては、下記のとおり勤務時間外の電話に対して音声アナウンスによる対応を行うことといたしました。保護者・地域の皆様におかれましては、趣旨を御理解の上、御協力いただきますようお願いいたします。

記

1 電話対応時間

原則 平日の午前8時00分から午後6時00分

・上記時間以外は音声アナウンス対応です。留守番機能（録音機能）はありません。

※ 片山中学校の対応については、裏面をご確認ください。（生徒の最終下校時刻を目安に切り替えます。なお、テスト期間中、長期休業中は対応時間を変更します。）

2 運用開始日

令和5年1月10日（火）

3 緊急時の対応

① 電話対応時間外において、児童・生徒の事件・事故等の緊急対応を要する場合は警察、消防・救急へ連絡ください。

② ①の対応と併せ、学校に緊急連絡が必要な場合は、下記連絡先へ連絡ください。

※緊急対応に係わっての連絡回線確保のため、児童・生徒の生命に関わる重大事態以外のお問い合わせにつきましては、お控え願います。

平日の午後6時00分～翌午前8時00分及び土・日曜日、祝日、年末年始などの終日

吹田市役所代表電話（守衛室） 06-6384-1231

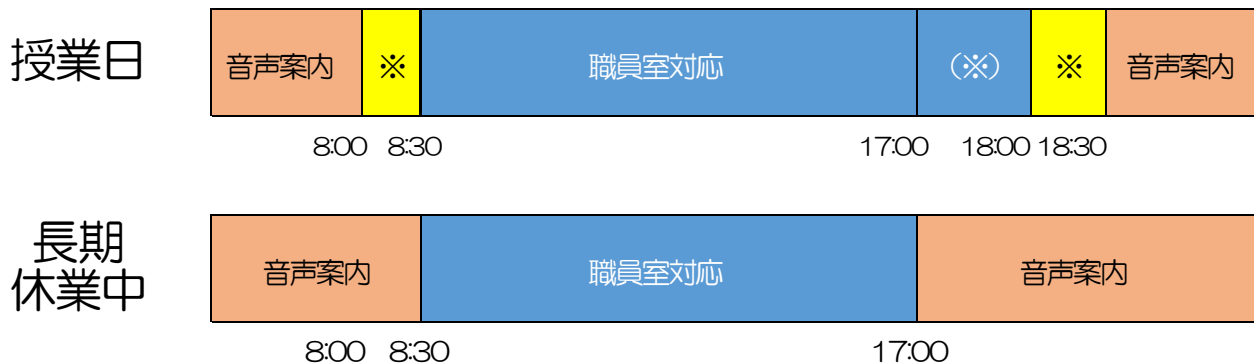
4 その他

- ・電話対応時間外でも必要により学校から保護者・地域の方へ連絡する場合があります。
- ・電話対応時間外での御相談を希望される場合は、事前に学校へ御連絡ください。
- ・学校行事や緊急対応等の際には、音声アナウンスの設定時間を変更することがあります。

片山中学校における時間外の音声アナウンス電話の対応について

『吹田市立小・中学校における電話対応について』を受け、本校におきましても、教職員の働き方改革の取組の一つとして、自動音声メッセージ機能付き電話による対応の切り替えを開始いたします。

自動音声メッセージの設定は、当面の間、生徒の最終下校時刻（午後6時）をめどに切り替えることといたしますが、本校の教職員の勤務時間が午前8時30分から午後5時までとなっていることから、研修や行事、長期休業中、その他の理由で生徒が午後5時までに完全下校した場合は、原則としている午後6時前であっても、勤務時間（午後5時）後に自動音声に切り替える場合もございますので、ご了承ください。



※：生徒が登校下校した時刻をめどに順次切り替え
 (※) 生徒が完全下校した時刻をめどに順次切り替え

音声案内時間帯は、次の音声メッセージが流れます。なお、伝言等を残すことはできません。
 「お電話ありがとうございます。誠に申し訳ありません、只今の時間は本校電話対応 時間外となっております。平日、電話対応時間内にお電話をかけ直しくださいますようお願い申し上げます。」(全市共通)

保護者、地域の皆様には、ご不便をおかけいたしますが、今後も子どもたち一人一人に向き合いながら、質の高い授業やきめ細やかな指導を継続するとともに、教職員一人一人がいきいきとした姿で子どもたちと向き合いながら、充実した教育活動が実施できるよう努めてまいります。

つきましては、取り組みの趣旨をご理解の上、何卒、ご協力いただきますようお願い申し上げます。

《保護者・地域の皆さまへ》

～学校の働き方改革へのご理解・ご協力をお願いします～

文部科学大臣メッセージ（文科省HPより転載）

いま、社会全体で働き方改革が進められていますが、学校の働き方改革は特に待たなしの状況です。皆さまのお住まいの地域の学校は、毎日どのような御様子でしょうか。

朝は子供たちが登校する前の7時すぎから子供たちを迎えるための準備を始め、夜は職員室の明かりが20時前までついていて、土日もグラウンドや体育館で部活動をやっている、これは全国の小・中学校の平均的な姿です。一人一人の子供たちと丁寧に向き合いたいという思いから、毎日時間に追われて働いているため、先生は他の職業と比べてストレスが高いというデータもあります。

「そのくらいなら、自分の方が働いている!」「忙しいのは先生だけみたいなこと言わないで!」。皆さまから、そんな声が聞こえてくるかもしれません。ですが、働き方改革が必要なのは先生を楽にするためではありません。学校が、子供たちの未来に直結する場所だからです。

御存じのとおり、これから大きく社会が変わろうとしています。今でもパソコンやスマホ、外国人との仕事や交流など、私たちが子供だったときは、取り巻く環境が違ってきています。学校は、子供たち一人一人がそんな未来をたくましく生き抜く力を身に付ける場所ではなくてはなりません。きちんと文章が理解できる力、答えのない問題に対し、自分で考え、仲間と協力して取り組む力、知らない人に自分の意見を正確に伝える力、そして英語やプログラミングなど、しっかり子供たちに身に付けさせなくてはなりません。

学校の働き方改革は、これまでの先生の働き方を見直し、毎日元気に子供たちの前に立って未来につながる力を育む教育を行うために必要なものなのです。先生には、授業やその準備をはじめとした先生にしかできない教育活動に全力投球していただきましょう。

お住まいの地域の学校でも、これから『朝の登校時間を改める』『夜は学校も留守番電話を設置する』『部活動の時間を見直す』『子供の補導時は基本的に保護者に対応いただく』といった取組が始まります。

こうした中、地域全体で子供たちによりよい教育環境を実現するため、学校・家庭・地域が教育目標を共有し、それぞれ何ができるか考え、連携・分担することが重要です。例えば、保護者や地域の方々などがサポート・スタッフや部活動指導員、ボランティアとして学校に参加する、土日の地域行事や登下校時の見守り、夜間の見回り等は地域が主体的に担うといった取組をこれまで以上に進めていただくことも考えられます。特に、PTAに期待される役割は大きく、学校や地域との役割分担を話し合い、共通理解を得ながら、活動を充実することが大切です。

未来を担うのは子供たちです。子供たちのために我々みんなて取り組んでまいります。子供たちの教育をますます良くする、そのための学校の働き方改革にご理解をいただき、ご協力をお願いいたします。

平成31年(2019年)3月18日
 文部科学大臣 柴山昌彦